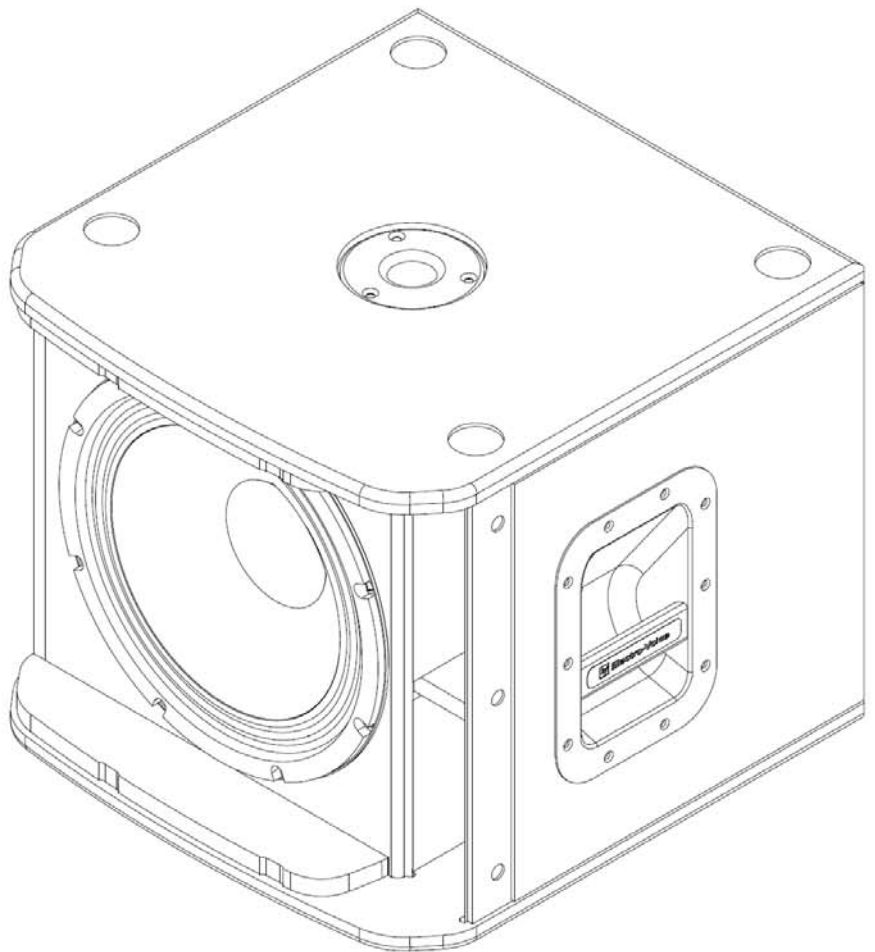
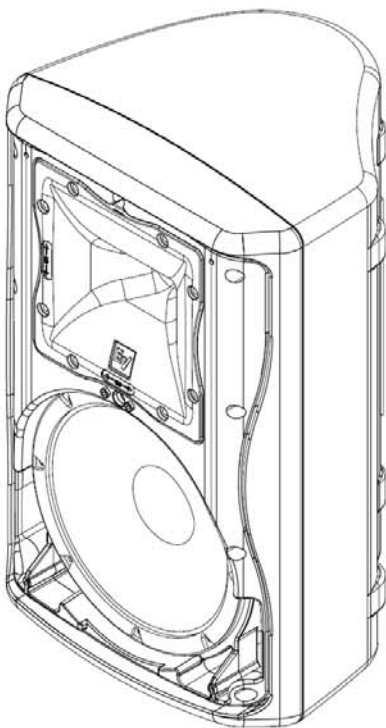


**ZX1**

**ZX1-Sub**

---

**Zx1 シリーズ・スピーカー・システム  
取扱説明書**








**ZX1**

**ZX1-Sub**

Live For Sound  
[www.electrovoice.com](http://www.electrovoice.com)



## 安全にお使いいただくために

	<b>CAUTION</b> RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN			正三角形に電光と矢印がある記号は、製品のケース内に絶縁されていない「高圧電流」が流れ、感電の危険があることを警告するものです。
<b>WARNING:</b>	TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK, DO NOT EXPOSE THIS APPLIANCE TO RAIN OR MOISTURE.			正三角形に感嘆符のある記号は、本装置の取扱説明書に記載されている操作と保守（整備）の重要な指示への注意を喚起するものです。
<b>AVIS:</b>	RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR.			正三角形にアスタリスクのある記号は、本スピーカー・システムに関連する装置とハードウェアの必要な設置と取り外しの指示を知らせるものです。
<b>WARNING:</b>	CONNECT ONLY TO MAINS SOCKET WITH PROTECTIVE EARTHING CONNECTION.			

1. 安全に正しくお使いいただくために、取扱説明書をお読みください。
2. 取扱説明書はいつでも見られる所に保管してください。
3. 警告の内容すべてに注意してください。
4. 取扱説明書に従って操作してください。
5. 本装置を水の近くで使用しないでください。
6. 汚れた場合は、乾いた布で拭いてください。
7. ラジエーター、通気調節装置、ストーブなどの熱源、またその他の熱を発生させる装置（アンプを含む）の近くに本装置を設置しないでください。
8. メーカー指定の取り付け具/付属品以外は使用しないでください。
9. 本装置に液体が落ちたり、飛散したりしないように注意し、液体の入った物を装置の上に置かないでください。

## 予防策

---



- Zx1 スピーカーを快晴の屋外で使用する場合は、日陰または屋根のある場所に設置してください。



- Zx1 スピーカーは+ 40°C (104°F) を超える環境で使用しないでください。



- Zx1 スピーカーを雨水、高湿度にさらさないでください。



- エレクトロボイスの Zx1 スピーカーは、カバーエリアの範囲内にいる人が永続的な難聴になるほどの音圧レベルを簡単に生成できます。長期間 90 dB を超える音圧レベルにさらされないように注意してください。

## 目次

---

製品の紹介 .....	4
システムの特長 .....	4
仕様 .....	5
フロアー・モニターとスピーカー・スタンドの設置 .....	6
Zx1 スピーカーの吊り下げ .....	8
高域ホーンの回転 .....	9
ロゴの回転 .....	9
推奨する構成 .....	10
寸法 .....	12
周波数特性グラフ .....	13
Zx1 モデル・リファレンス表 .....	13
トラブルシューティング .....	14

## 製品の紹介

---

このたびはエレクトロボイス Zx1 パッシブ・スピーカー・シリーズをお買い上げ頂き有難うございます。本書をお読みにになり、エレクトロボイス・スピーカー・システムに組み込まれた機能を理解し、その性能をご活用ください。

エレクトロボイス Zx1 シリーズは、お客様の期待どおりに、ステージで迫力ある音響を提供できます。エレクトロボイス社のドライバ、コンポーネントおよびアンプは伝説に残るほど有名で、すべて最高レベルのライブ・パフォーマンスで証明されています。Zx1 は、頑丈で軽量のキャビネットにエレクトロボイス社の技術が結集されており、現在最もパワフルで多目的な小型スピーカーです。Zx1 と Zx1-Sub の組み合わせで、本当に素晴らしいプロ向けサウンド・システムを構築してください。

## システムの特長

---

### Zx1 – 8 インチ 2 ウェイ・スピーカー・システム

Zx1 はコンパクトでパワフル、サウンド・レインフォースメントやステージ・モニター用スピーカーとして多目的に使えるスピーカー・システムです。

- 非常にスムーズで広帯域の周波数特性
- 魅力的で均整のとれたデザイン。フル・グリル付き
- EV8L 8 インチ高出力 LF トランスデューサ
- DH2005 1 インチ Exit True コンプレッションドライバー搭載
- 90° x 50° カバレッジ・パターン
- 回転可能なホーン設計
- フロアー・モニターにも適した角度を持つキャビネット設計
- 許容入力 200W (連続)、800W (ピーク)
- 高感度、最大 SPL は 123 dB
- 本体と一体になったポール・マウント・ソケット
- 持ち運びが簡単な一体型ハンドル・ポケット

### Zx1-Sub – 12 インチ・パッシブ・サブウーファ

Zx1-Sub との組み合わせで最適な性能が得られ、重厚感のある低音を付加し、迫力を体感できます。

- 15mm 合板筐体、内部補強、テクスチャーペイント塗装
- EVS-12S 305 mm (12 インチ) ウーファ搭載、パワフルで魅力的な響きの低音特性
- フルレンジ・システム・サテライトマウント用ポール・マウント・カップ



## 仕様

モデル	Zx1-90	Zx1-Sub
周波数特性 (-3dB) <sup>1</sup> :	60Hz - 20kHz	53Hz - 125Hz
周波数レンジ (-10dB) <sup>1</sup> :	48Hz - 20kHz	42Hz - 200Hz
Rec.ハイパス周波数:	40 Hz	38Hz
軸感度:	94 dB (1W/1m)	94 dB
最大測定 SPL <sup>1,2</sup> :	126 dB	127 dB
水平カバレッジ:	90° または 50°	無指向性
垂直カバレッジ:	50° または 90°	無指向性
許容入力:	200 W (連続)、400 W (プログラム)、800 W (ピーク)	400 W (連続)、800 W (プログラム)、1600 W (ピーク)
LF トランスデューサ:	EV8L, 203mm (8 インチ) ドライバ	EVS-12S, 305 mm (12 インチ) ウーファ
HF トランスデューサ:	DH2005, 25.4 mm (1 インチ) コンプレッション ドライバー	N/A
クロスオーバー周波数:	1.7kHz	N/A
公称インピーダンス:	8 Ω	8 Ω
最小称インピーダンス:	6 Ω	7.5 Ω
コネクタ:	Speakon NL4 (2)	Speakon NL4 (2)
筐体の素材:	ABS	9層、15mm 合板、内部補強、テクスチャーペイント 塗装
グリル:	ポリエステル・パウダーコート塗装の 18GA 亜鉛 めっき	16GA スチール、黒パウダーコート塗装
寸法 (H x W x D):	457mm x 282mm x 264mm (17.98" x 11.12" x 10.38")	400mm x 444.5mm x 457.2mm (15.75" x 17.50" x 18.00")
正味重量:	8.4kg (18.5lbs)	19.8kg (43.6lbs)
輸送重量:	10.2kg (22.5lbs)	25.4kg (56.0lbs)

1. ハーフスペース測定

2. 最大 SPL 値は、定格最大出力時、広帯域ピンク・ノイズを使用して 1m 離れたところで測定。

## フローア・モニターとスピーカー・スタンドの設置

### フローア・モニター

エレクトロボイス Zx1 スピーカーは、スピーカーを統合モニタ角度で設置することでフローア・モニターとして使用できます。次の点を確認し、配置してください。

- スピーカーを平らで安定し、頑丈でしっかりした面に置きます。
- 出演者、製作スタッフ、観客らがケーブルにつまづかないように配線します。
- 可能であればケーブルをワイヤ・タイまたはテープで固定します。

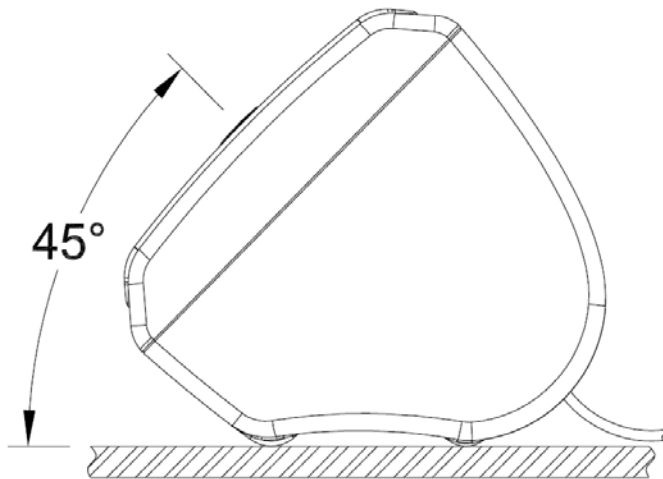


図 1:  
Zx1 モニタアングル

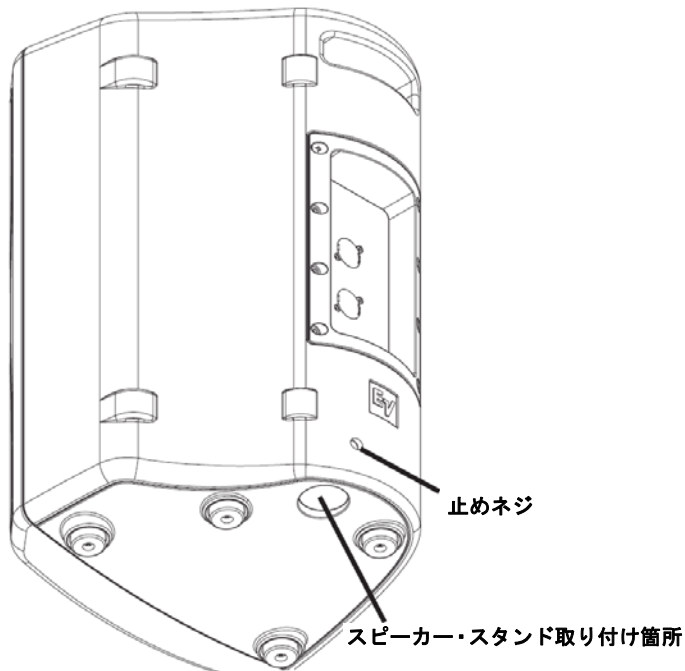


図 2a:  
Zx1 ポール・マウント・ホールの位置

## フローアー・モニターとスピーカー・スタンドの設置

### スピーカー・スタンド

エレクトロボイス Zx1 スピーカーには 35 mm スタンド・マウント・ホールが標準装備で、スピーカー・スタンドの上に取り付け可能です。次のことを確認し、安全に設置してください。

- 汎用スピーカー・スタンドを使用する場合、仕様を参照してスピーカー・スタンドの最大荷重を確認してください。
- スピーカー・スタンドを平らで安定した面に置き、スタンドの脚が完全に伸びているか確認してください。スタンドを「さらに高く」したり、その構造上の完全性を損なわないようにしてください。
- 出演者、製作スタッフ、観客らがスタンドやケーブルにつまずいたり、スピーカー・システムをひっくり返したりしないようにケーブルを配線し、スタンドを配置してください。
- 可能であればケーブルをワイヤ・タイまたはテープで固定してください。
- 1台のスピーカー・スタンドに複数のスピーカーを取り付けしないでください。
- スピーカーが重くて安全にスタンドに持ち上げることができないと思われる場合は、誰かに手伝ってもらってスタンドに載せてください。
- 使用中、ガタガタという音がしたりスピーカーが回転したりしないように止めネジを締めてください。

### ポール・マウント

エレクトロボイス Zx1-Sub スピーカーには 35mm ポール・マウント・カップが付属しており、Zx1-Sub の上にフルレンジ・スピーカを取り付けることができます。次のことを確認し、安全に設置してください。

- 1.2m 以下のスピーカー・ポールを使用し、11.3kg 以下の重量のスピーカーを取り付けてください。
- Zx1-Sub が平らで安定した面に置かれていることをチェックします。

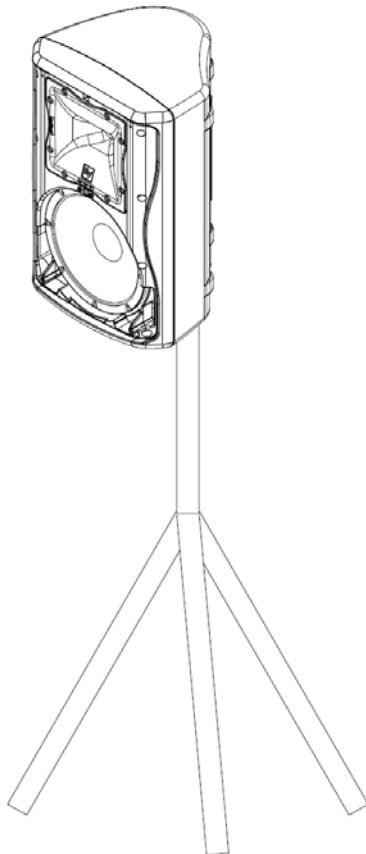


図 2b: 三脚スタンドに取り付けた Zx1

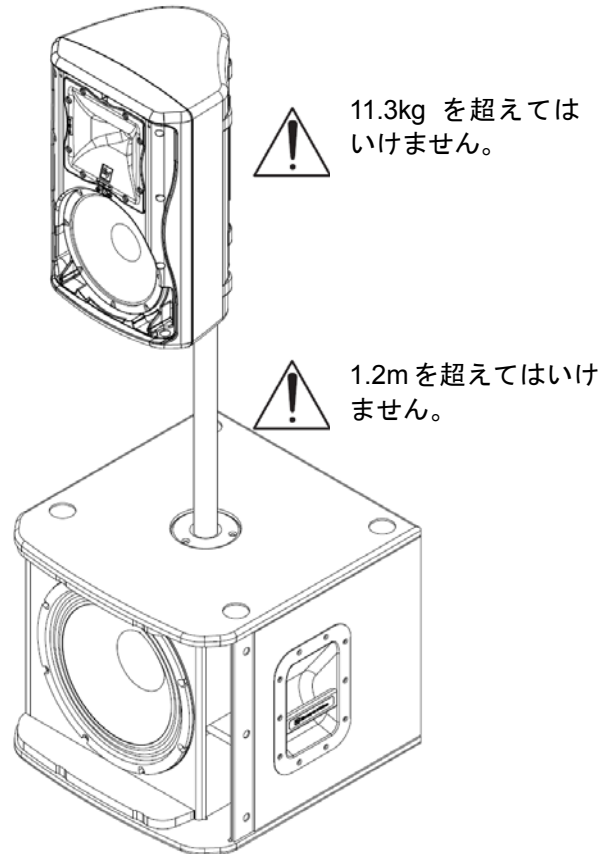


図 2c:

ポール・マウントで連結した Zx1 と Zx1-Sub フルレンジ/サブスタック

## Zx1 スピーカーの吊り下げ

エレクトロボイス Zx1 スピーカーは MP1 サスペンション・キットを使用してシングル・スタッド金具で安全に吊り下げることができます。または、TCA-Zx トラス・クランプ・アダプタを使用して迅速にトラスに取り付けることができます (MP1 と TCA-Zx は別売品です)。MP1 または TCA-Zx の正しい組み付けと使い方はそれぞれの説明シートを参照してください。



**警告:** 物を吊り下げるといことは危険を伴うことなので、その作業は必ず、頭上取り付け装具の技術と規則について詳細な知識を持つ人が行う必要があります。エレクトロボイス社では、現行の国内、連邦、州、地方自治体の条例を考慮して Zx1 スピーカーを吊り下げを強くお勧めします。Zx1 スピーカーをそのような条例すべてに準拠して設置することは設置者の責任です。Zx1 スピーカーを吊り下げる場合、エレクトロボイス社では最低年 1 回のシステム点検を推奨しています。弱い部分または破損の兆候が見つかった場合は、直ちに改善措置を講じてください。EV サスペンション&アレイ・キットそれぞれの説明シートはスピーカーを吊り下げる前にも参照してください。

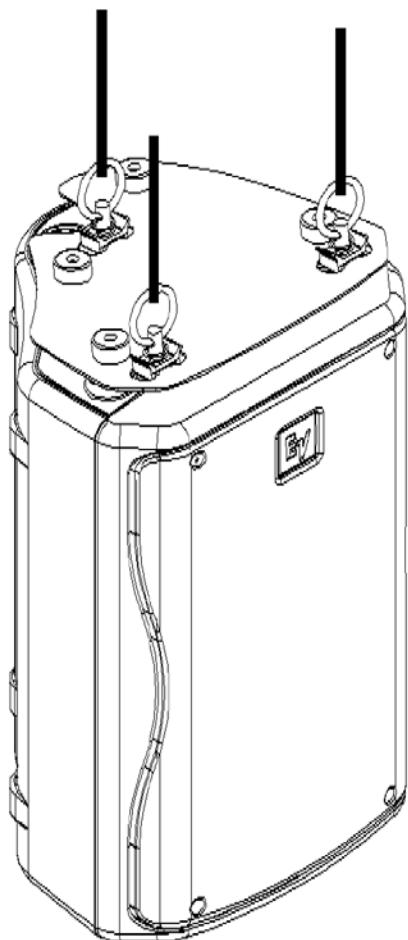


図 3:  
MP1-B 取り付けプレート

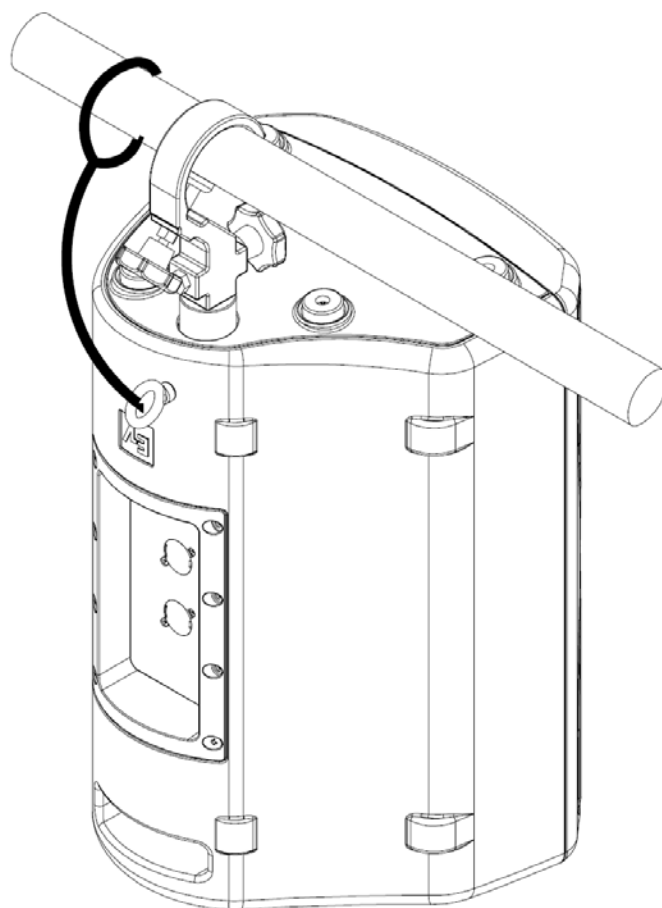


図 4:  
TCA-ZX トラス・クランプ



## 高域ホーンの回転

Zx1 の 90° バージョンでは必要に応じてホーンを回転させ、より効果的なカバレッジを実現できます。出荷時、ホーンは水平 90 度、垂直 50 度の指向性を持つように取り付けられています。

ホーンの回転は、次の手順を行ってください。

1. グリルのねじ/グリル・アッセンブリを取り外します。
2. ホーンのねじ/ホーン・アッセンブリを取り外します。
3. ホーン・アッセンブリを 90 度回転させます。
4. ホーン・アッセンブリをホーン取り付けねじで固定します。
5. グリル・アッセンブリをグリル取り付けねじで固定します。

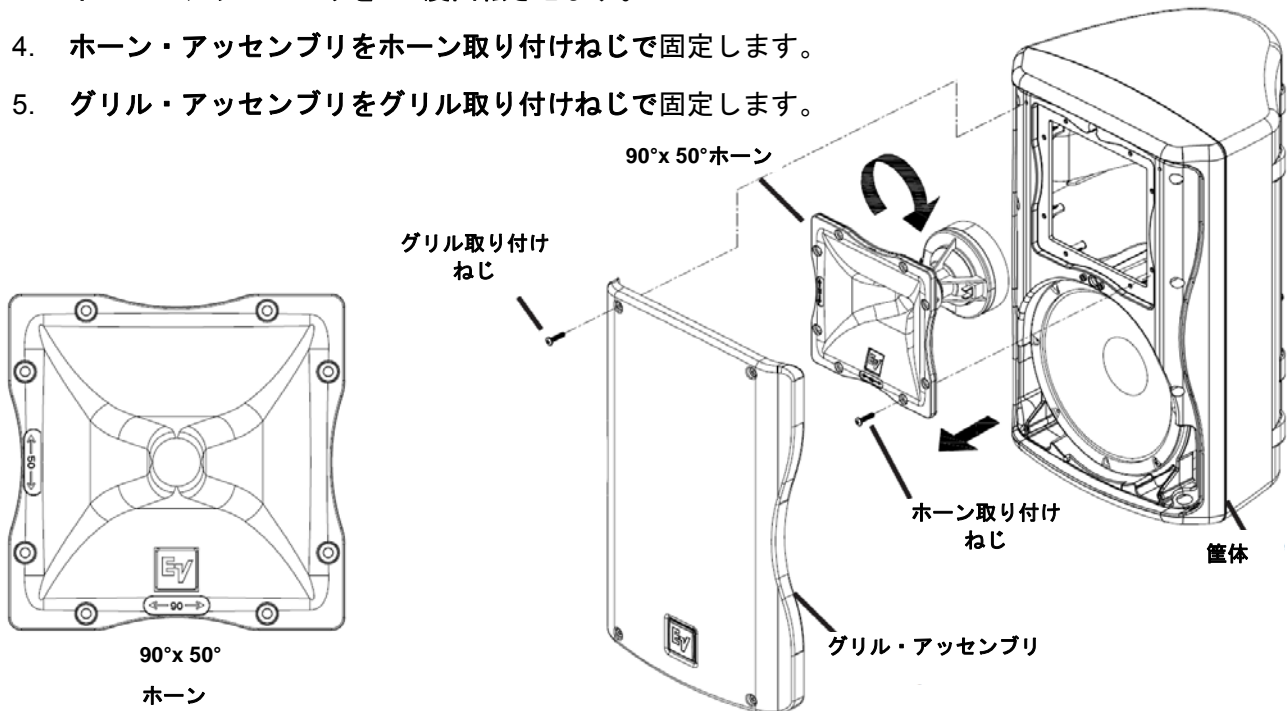


図 5:  
Zx1-90 ホーンの回転

## ロゴの回転

Zx1 のすべてのバージョン (Zx1-Sub は除く) では、必要であればロゴ・バッジを回転させることができます。ロゴ・バッジは正方形で、90 度ずつ回転させることができます。

ロゴ・バッジを回転させるには、次の手順を行ってください。

1. 指で、またはマイナス・ドライバをロゴ・バッジの下に入れて (グリルに傷を付けないように注意)、ロゴ・バッジをつかみます。
2. ロゴ・バッジをロゴくぼみから手前に引っ張り、グリル前面から完全に浮かせます。
3. ロゴ・バッジを 90 度ずつ回転させ、希望の向きにします。
4. その位置でロゴ・バッジを離します。バッジは自然にロゴくぼみにはね戻ります。

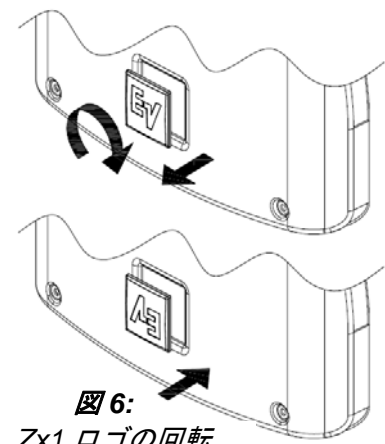



図 6:  
Zx1 ロゴの回転

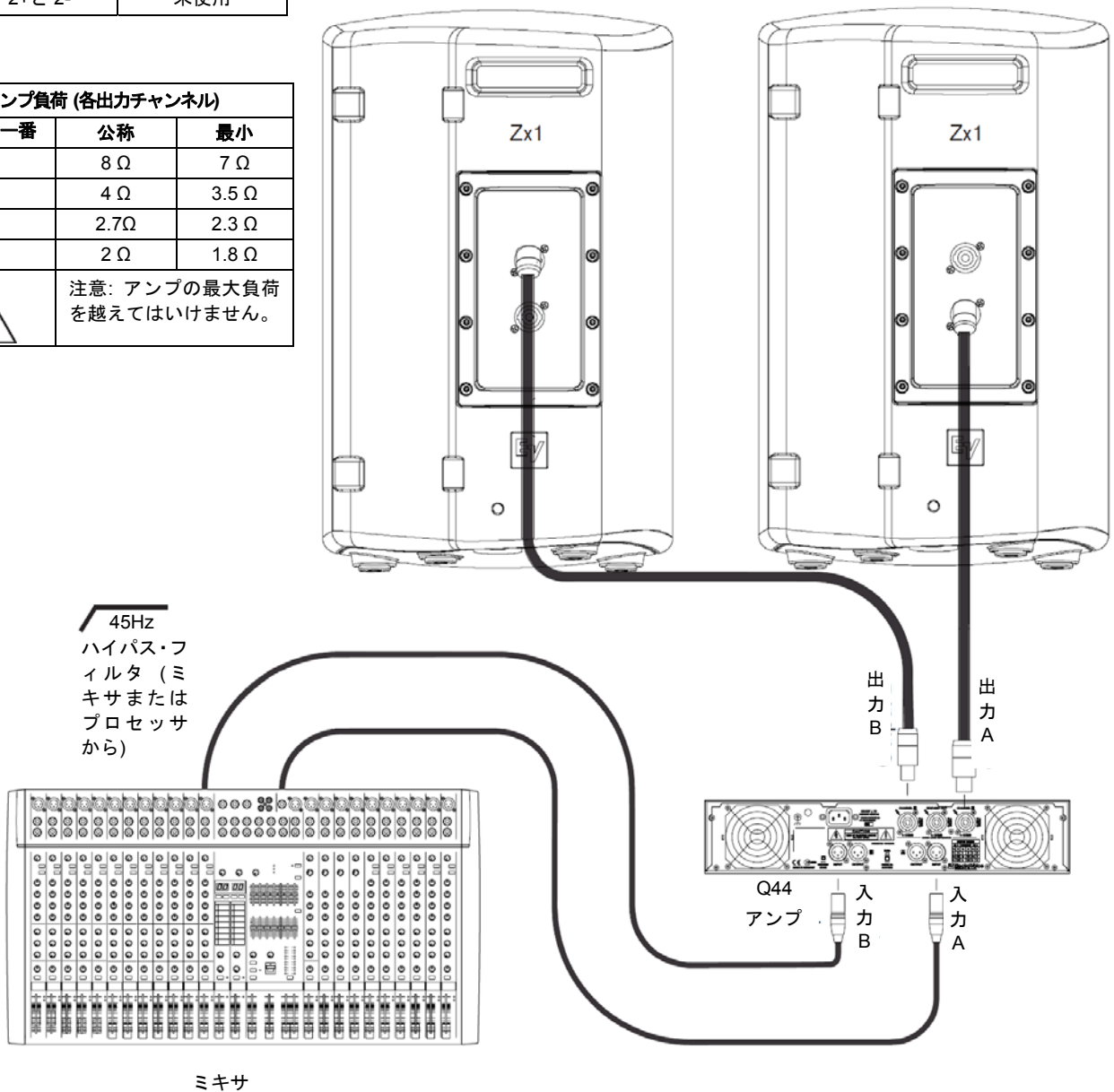
# ZX1 ZX1-Sub

## 推奨する構成

### Zx1 を使用した基本ステレオ・システム

NL4 ピンの構成	
ピン 1+と 1-	使用
ピン 2+と 2-	未使用

アンプ負荷 (各出力チャンネル)		
スピーカー番号	公称	最小
1	8 Ω	7 Ω
2	4 Ω	3.5 Ω
3	2.7 Ω	2.3 Ω
4	2 Ω	1.8 Ω
 注意: アンプの最大負荷を越えてはいけません。		



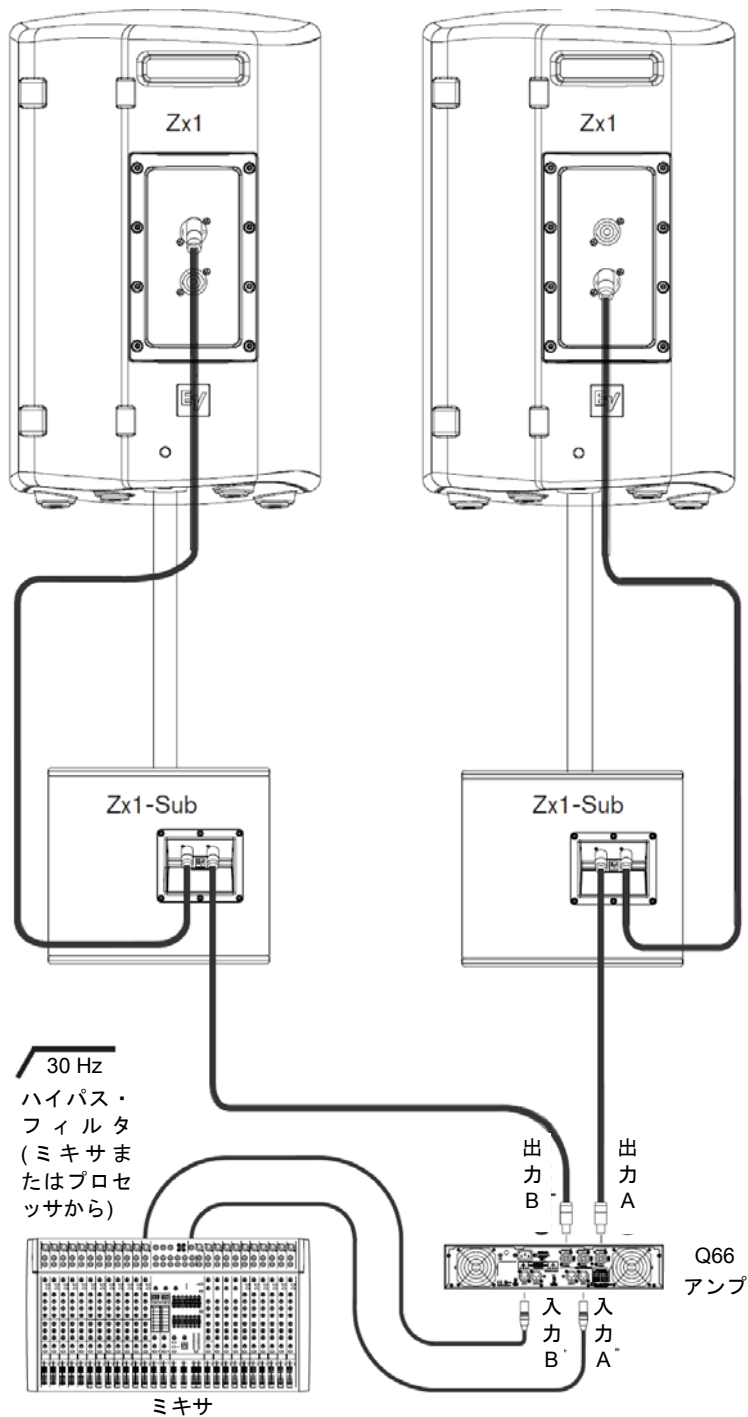
## 推奨する構成

### Zx1-Sub サブウーファを Zx1 へ接続

この構成ではアンプ・チャンネルを追加せずに低域再生を増大させることができます。

NL4 ピンの構成	
ピン 1+と 1-	使用
ピン 2+と 2-	未使用

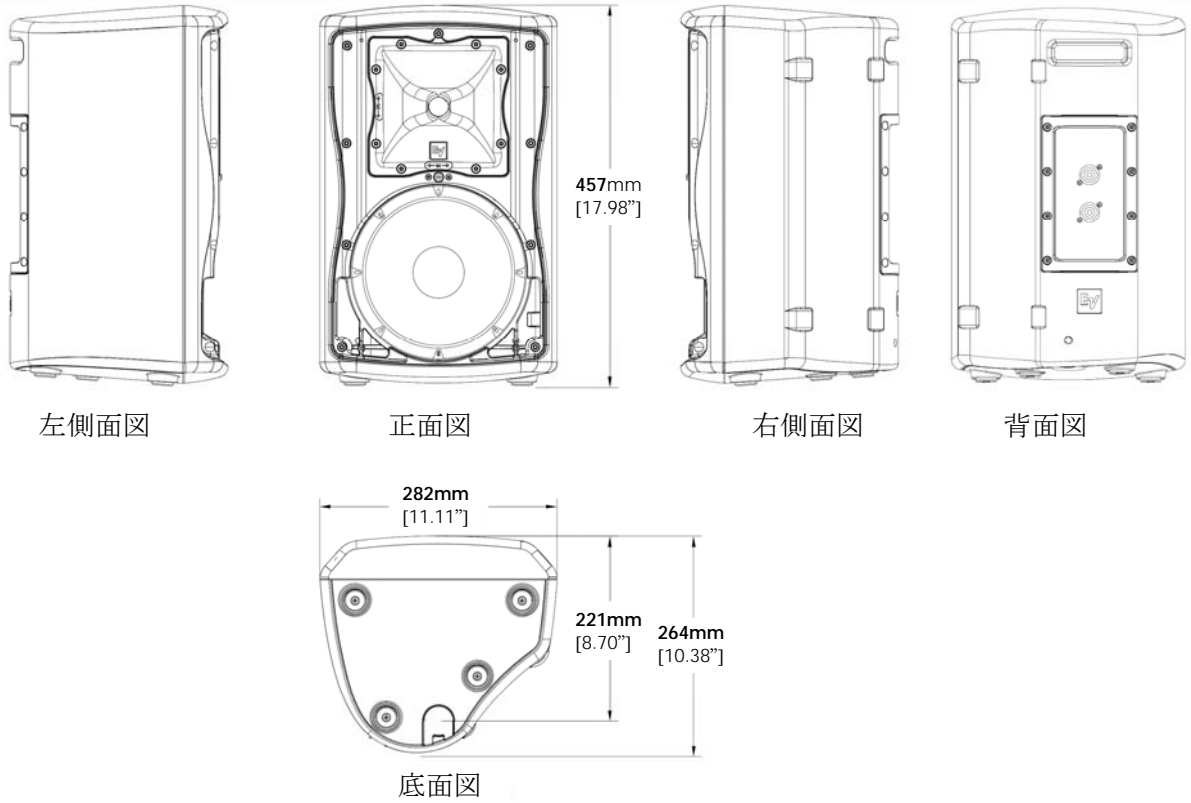
アンプ負荷 (出力チャンネル1つ当たり)		
サブウーファ/フルレンジの組み合わせの番号	公称	最小
1	6 Ω	4.6 Ω
2	3 Ω	2.3 Ω
	注意: アンプの最大負荷を越えてはいけません。	



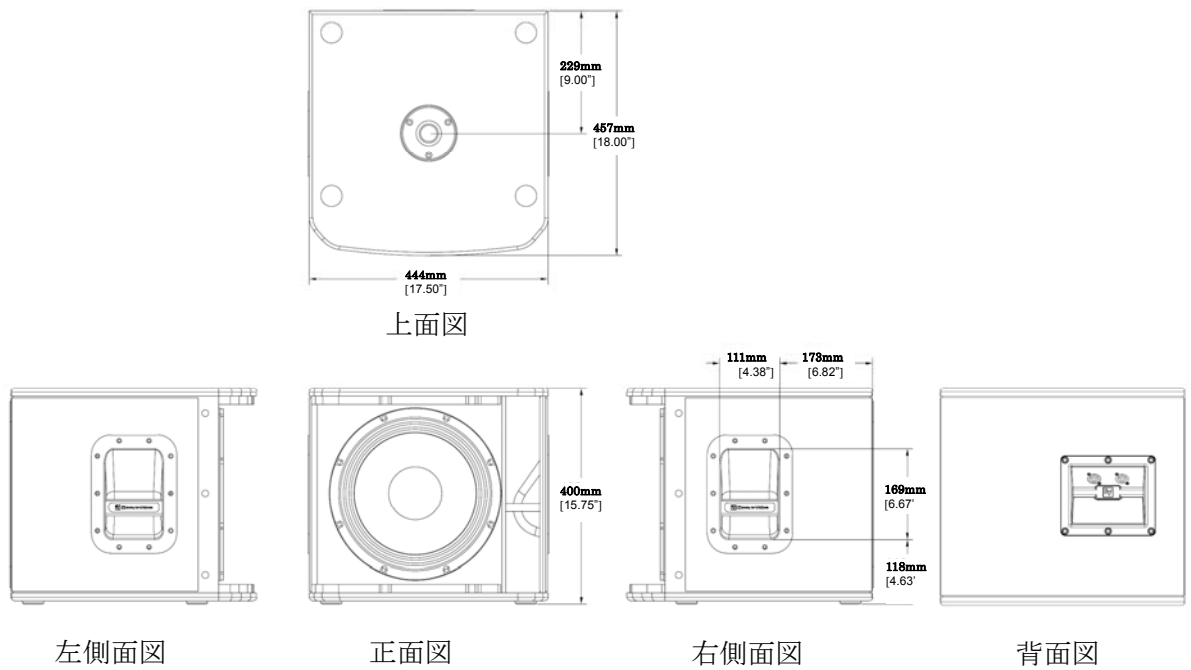
# ZX1 ZX1-Sub

## 寸法

### Zx1

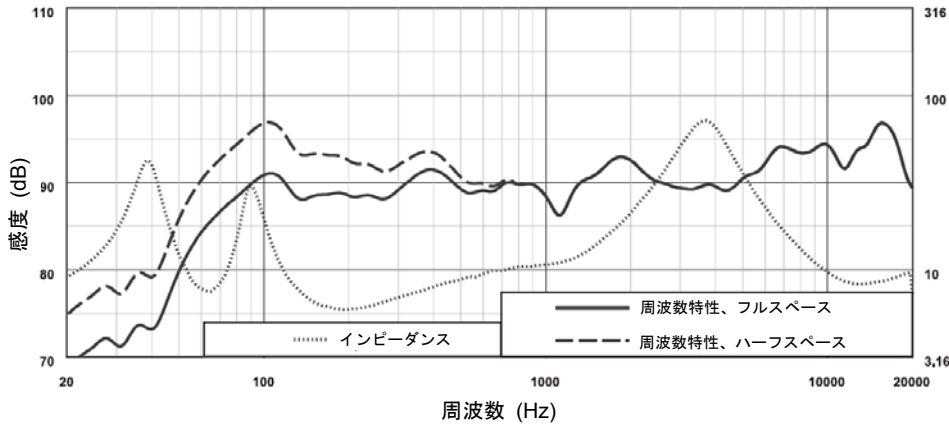


### Zx1-Sub

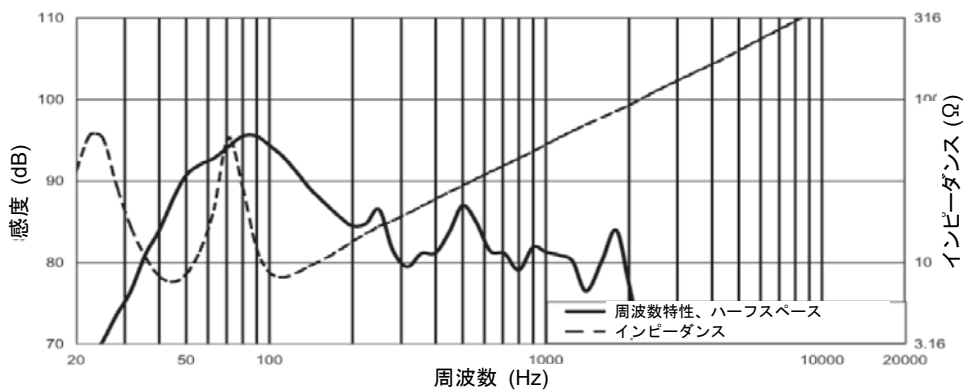


# 周波数特性グラフ

## Zx1-90



## Zx1-Sub



# Zx1 モデル・リファレンス表

アクセサリ	説明
ASP-1	サテライトマウント用スピーカー・スタンド
MP1-B	取り付けプレート・キット、黒
CB1	キャリーバッグ、コンバーチブル、黒
ZX-ZXA-CVR	ZX1 用スピーカー・カバー、黒
ZXA1-SUB-CVR	ZX1-Sub 用スピーカー・カバー、黒
TCA-ZX	トラス・クランプ・アダプタ、黒
TSS-1	スピーカー・スタンド
TSP-1	TSS-1スピーカー・スタンド x2 (キャリーケース付き)

## トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対応策
1. 音がでない。	アンプの問題	正しく鳴ることが分かっているテスト・スピーカーをアンプ出力に接続します。音が聞こえない場合は、電子機器がすべてオンになっていること、信号ルーティングが正しいこと、音源がアクティブであること、ボリュームを上げていることなどをチェックし、必要ならば修正/修理/交換してください。音が聞こえる場合は、配線に問題があります。
	配線の問題	アンプに正しいワイヤ・ペアを接続してあるか確認します。低いレベルでアンプを通して何か音楽を流します (CD プレーヤーやチューナーなどから)。テスト用プレーヤーを故障しているラインと並列接続します。サウンド・レベルが消えているまたは非常に弱い場合、ラインはショートしています (おそらくひどいこすれ、圧迫またはステープルの刺穴が原因)。サウンド・レベルが通常どおりであれば、ワイヤはオープン回路です (おそらくワイヤ切断または接続抜け)。テスト用スピーカーを使い、ラインを移動し、各接続/接合部をテストして問題箇所を特定し、問題を解決します。また、極性が正しいかも確認してください。
2. 低周波特性が不十分	スピーカーのプラス、マイナスの配線が逆です。	2 台のスピーカーがプラス、マイナスが逆に接続されている場合、低周波数は互いにその音をキャンセルし合います。スピーカー・ケーブルのマーキングまたはトレーサーをよく見てください。アンプ (+) 端子を NL4 コネクタのピン 1+に、アンプの(-)端子を NL4 コネクタのピン 1-に接続してあるか確認してください。
3. 断続的にパチパチというノイズやひずみ雑音がある。	接続不良	アンプとスピーカーのすべての接続をチェックし、ケーブルに汚れがなくしっかり接続されていることを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、アンプまたは配線に問題があります。上記の症状 1 を参照してください。
4. 絶えずブーという音、シュートという音、ブーンというノイズが鳴っている。	音源またはその他の電子機器の不具合	ノイズがあり入力している演奏曲目が鳴っていない場合、おそらく電子機器の信号チェーンに原因があります。必要に応じて各コンポーネントを調べ、問題を特定してください。
	システムのグラウンドが不適切またはグラウンド・ループが発生している。	必要に応じてシステム・グラウンドをチェックし、修正してください。
	ゲイン構造が正しくない	音源のレベル・コントロールが適切に構成されていることを確認してください。マイクロホン・ケーブルが MIC IN に接続されているか、ライン・レベル・ケーブルが LINE IN に接続されているか確認してください。
上記の対応策を講じても問題を解決できない場合は、最寄りのエレクトロボイス販売代理店にお問い合わせください。		



## 保証

---

保証については弊社ホームページ([http://www.eviaudio.co.jp/warranty\\_policy/index.html](http://www.eviaudio.co.jp/warranty_policy/index.html)) をご覧ください。



[www.eviaudio.co.jp](http://www.eviaudio.co.jp)

株式会社 イー ブイ アイ オーディオ ジャパン

100-0014 東京都千代田区永田町2丁目13-1 ボッシュビル赤坂9階 Phone:03-5485-4427 Fax:03-3507-4422

品川サービスセンター/140-0002 東京都品川区東品川4丁目13-34 タカセ(株)東京営業所内 Phone:03-5485-4434 Fax:03-3450-9791

名古屋/Phone:052-331-9691 Fax:052-331-9592 大 阪/Phone:06-6464-3109 Fax:06-6464-3099